

人 口

大正9年の第1回国勢調査では1 336 155人であつた本県人口は、昭和30年には220万を突破した。この間大正9年から35年間の人口増加は87万人であつて、これを大正9年=100とした指数で見ると、165となり、全国の増加率161より上廻つている。

なお、人口動態統計で見ると、終戦直後急激に上昇した出生率も、最近では、逆に戦前より低く、他方、死亡率は医薬の急速な発達によつて極めて低くなり、戦前の半になつた。したがつて自然増加率に急激な変化がない限り、転入、転出の社会移動で人口は減つても、それ以上の自然増加のため当分の間は本県人口は増加して行くものと考えられる。

又、人口密度から見ると、大正9年に(1km²あたり)264人であつたが、昭和32年には439と倍増し、大正9年全国第13位であつたのが8位に躍進した。

つぎに、就業状態についてみると、昭和30年では、第1次産業56.0%、第2次産業14.0%、第3次産業30.0%となつており、第1次産業の就業者が多く、第2次、第3次産業が少い。

これは、本県の就業人口が農林水産業に依存していることを示すものである。しかし、これを昭和9年、25年と比較すると、農林水産業部門が減少し、非農林業部門の増加が目立つており、原始産業から近代産業へと移行しつつあることを示すものである。